

大阪の成長を支える人材育成 誰もが活躍できる街大阪を目指す

2025年1月19日

追手門学院大学 藤原直樹ゼミ

柳田純里 織田七菜 山本茜 湊悠桜 西本海志

報告内容

- ・ 1. 研究の背景と目的
- ・ 2. 研究の方法
- ・ 3. 調査結果
- ・ (フィールドワーク調査)
- ・ 4. 分析・考察
- ・ 5. 政策提案
- ・ 6. 参考文献

中間報告会でご指摘いただいたポイント

- ・大阪ならではのグローバル人材の定義は？
→大阪の強みを生かしたもののからゴールを提示
- ・政策提案において企業側にメリットがあるのか？
→東京調査から政策提案の内容を変更

1. 研究背景

- ・グローバル化が急速に進行、国際交流が盛んになっている
- ・大阪が「アジアの主要都市」として持続的に発展していくためには
「グローバル人材」の育成が必要



ゴール 誰もが活躍できる街大阪

- ▶ 世界で最も住みやすい都市ランキング第10位 アジア1位
- ▶ 東京よりもビジネスコスト、生活費が低価格

義理人情の街

世界のゲートウェイ

大学・研究機関

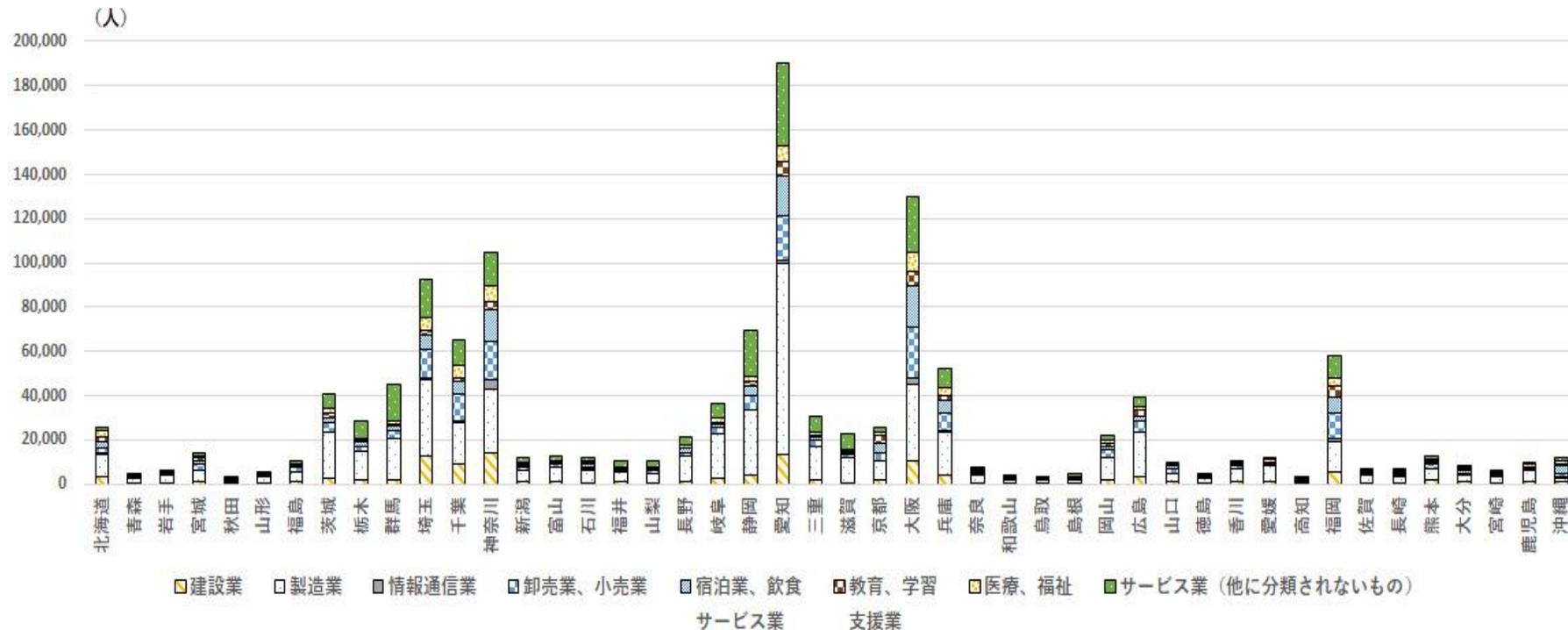
大阪のポテンシャルを生かして
グローバルな経済都市実現のための人材育成

「外国人雇用状況」

外国人労働者数

東京 542,992人（全体の26.5%） ・ 愛知 210,159人（同 10.3%） ・ 大阪 146,384人（同 7.1%）

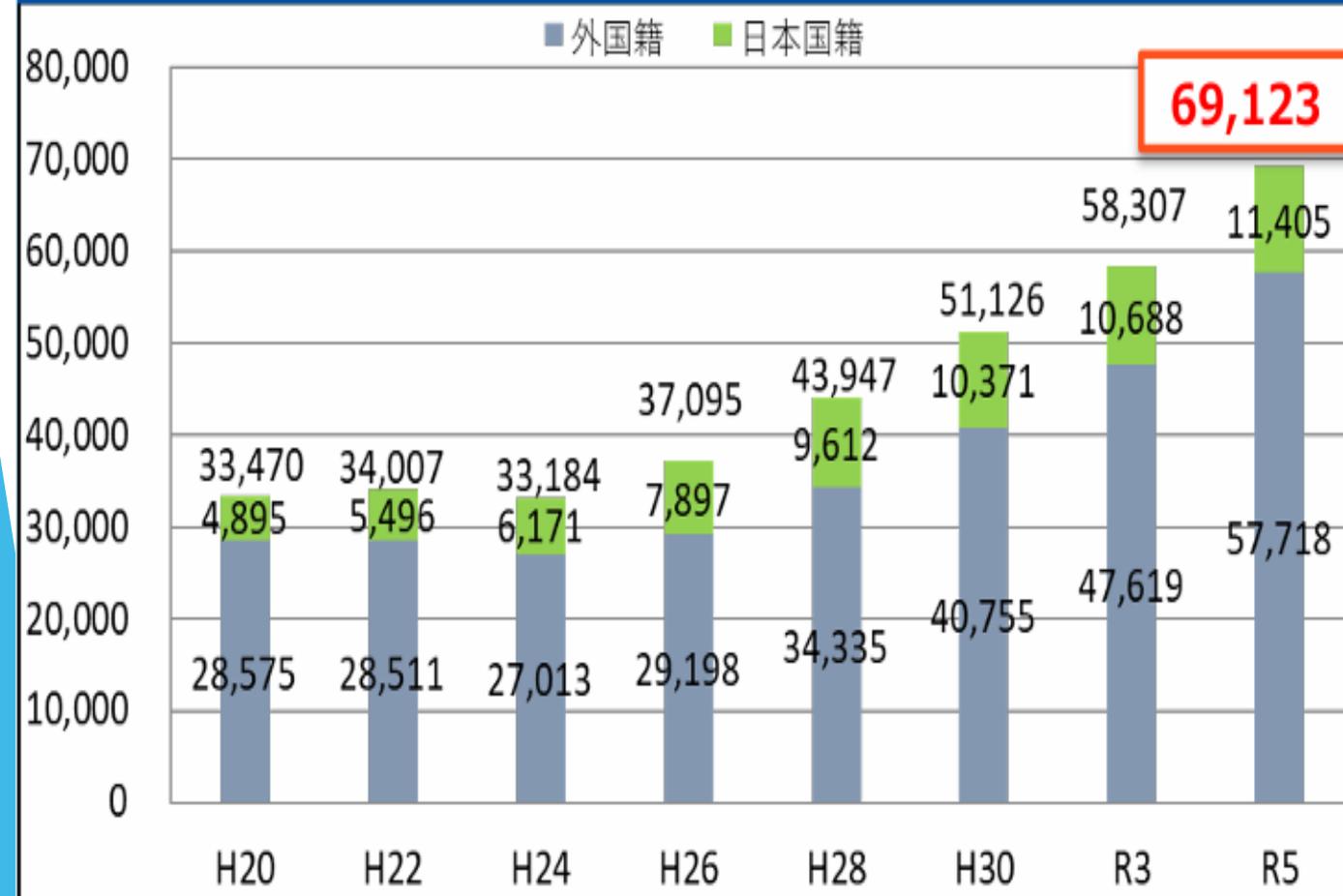
大阪は東京の1/3以下



出所：厚生労働省の『「外国人雇用状況」の届出状況まとめ』
https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_37084.html

課題①

公立学校における日本語指導が必要な児童生徒数の推移



日本語指導が必要な児童生徒数は、**69,123人**で前回調査より**10,816人**増加（**18.6%増**）

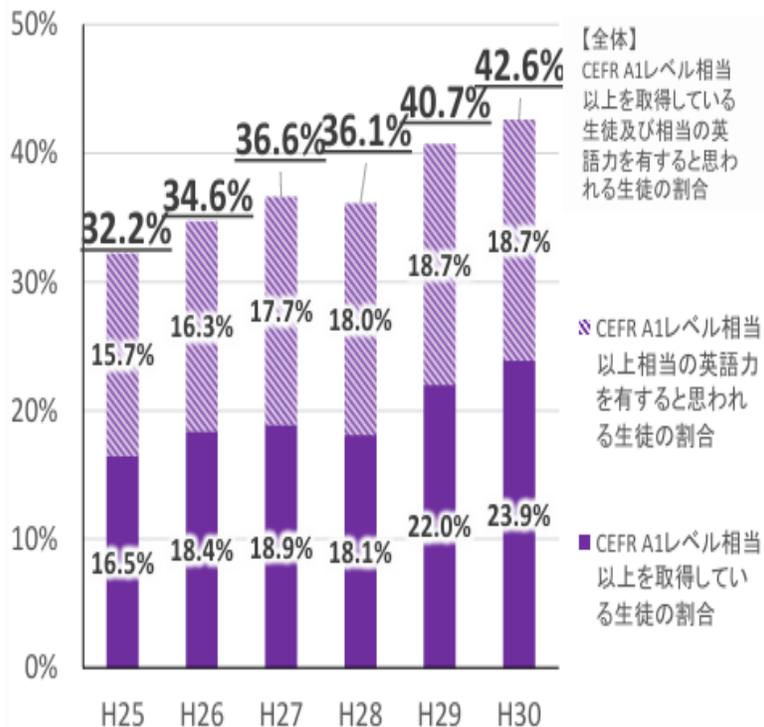
日本語指導が必要な外国籍の児童生徒数は**57,718人**で前回調査より**10,099人**増加（**21.2%増**）

日本語指導が必要な日本国籍の児童生徒数は**11,405人**で前回調査より**717人**増加（**6.7%増**）

「外国人教育の現状」

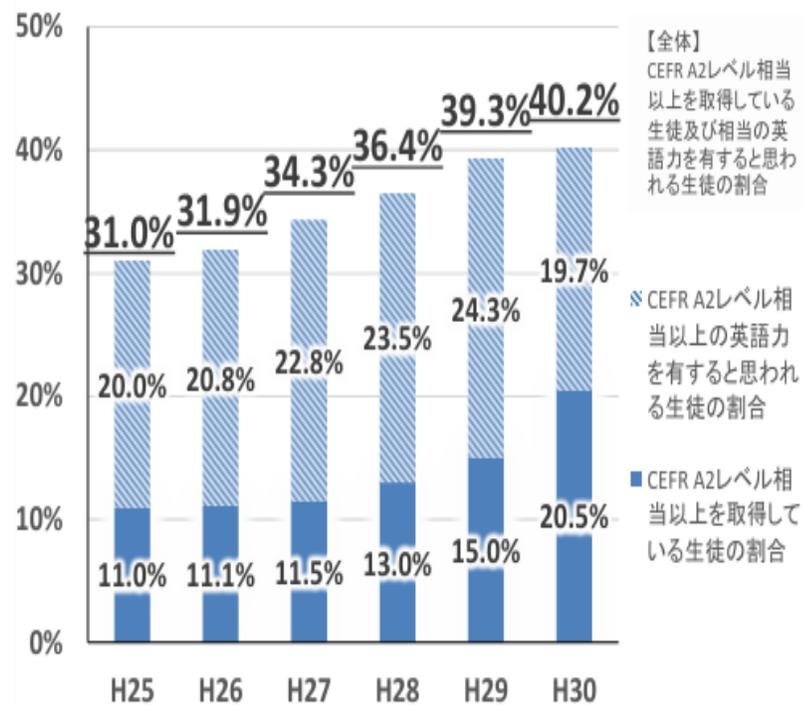
中学生

(CEFR A1レベル相当以上)



高校生

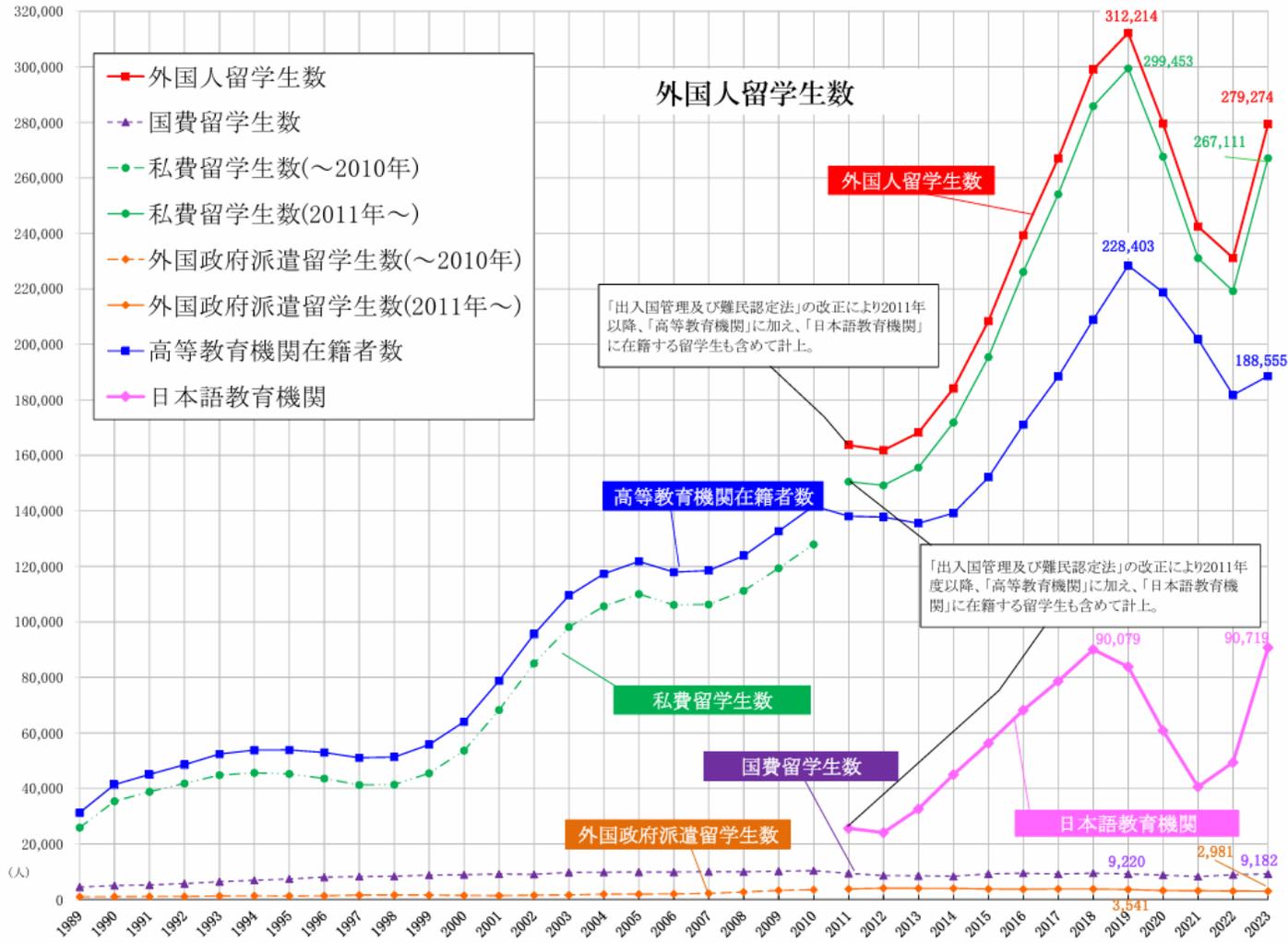
(CEFR A2レベル相当以上)



CEFR A1 レベル (英検3級) 相当以上を達成している中学生。CEFR A2 レベル (英検準2級) 相当以上を取得している高校生の割合はともに増加傾向

都道府県 指定都市による差が大きく、全体としては未だ目標 (各50%以上) には到達していない

グローバル人材の育成



**外国人留学生数は279,274人
(対前年度比48,128人
(20.8%) 増)**

**留学生数の多い国・地域は、中国115,493人
(対前年度比11.2%増)、ネパール37,878人
(対前年度比56.2%増)**

大阪府の国際化現状

▶ 在留外国人人数

272,449人(令和4年12月31日現在) 府の人口の3.1%

▶ 国籍・地域別

韓国・朝鮮籍 34.3%

中国・台湾籍 27.6%

ベトナム籍 17.5%

▶ 留学 留学生数21,190人(令和4年5月1日)

▶ 出身地域 中国38% ベトナム27% ネパール9% 韓国5%

大阪に就職した留学生は3,129人(令和4年)

出所：数字で見る大阪府の国際化』 <https://www.pref.osaka.lg.jp/o070090/kanko/kokusai-data30/index.html>

課題② 外国人留学生の低い就職実現率

アジアの留学生を今後採用したい企業は75.4%

アジア出身の留学生を採用したことがある企業 32.3%

留学生が日本企業に就職できても、言葉の壁、ビジネス文化、価値観から定着しない、活躍できない

出所：株式会社ディスコキャタスリサーチ「外国人留学生、高度外国人人材の採用に関する企業調査結果

https://www.lisalisa50.com/research20180131_1.html

留学生側

「3つの不足」により、就職活動自体が十分にできていない留学生が多い。

時間

研究で忙しく、就職活動ができない
(バングラデシュ 男性 B.C.D)

交換留学のため、時間が足りない
(ブラジル 女性 J.M)

在留期限まであと少ししか残って
いない(トルコ 男性 B.K)

情報

留学生を本当に採用する企業の情
報が探しにくい(エジプト 女性 P.E)

選考は長く複雑で、情報はときどき
明確ではない(フランス 女性 C.D)

履歴書は手書きでないといけない
から難しい(ウズベキスタン 男性
F.M)

資金

交通費の工面が難しい
(シリア 女性 A.L)

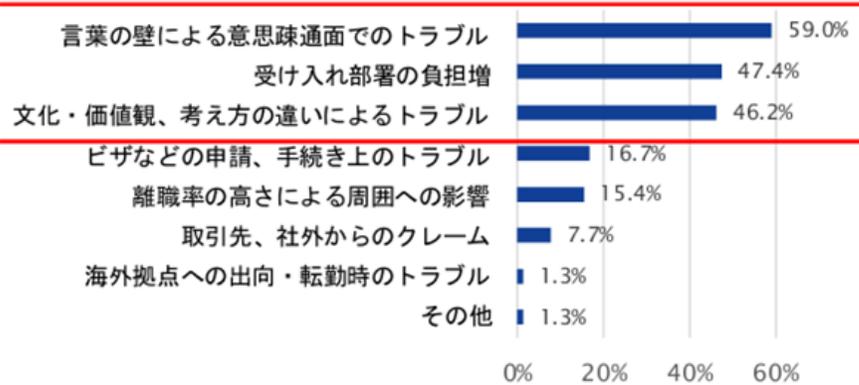
アルバイトを減らすと生活が厳しく
なる(中国 男性 S.S)

リクルーティングスーツなどの出費
が辛い(インドネシア 男性 N.M)

企業側

「外国人材の“個”を活かす採用」よりは、
「現場の負担を増やさない採用」を目指す

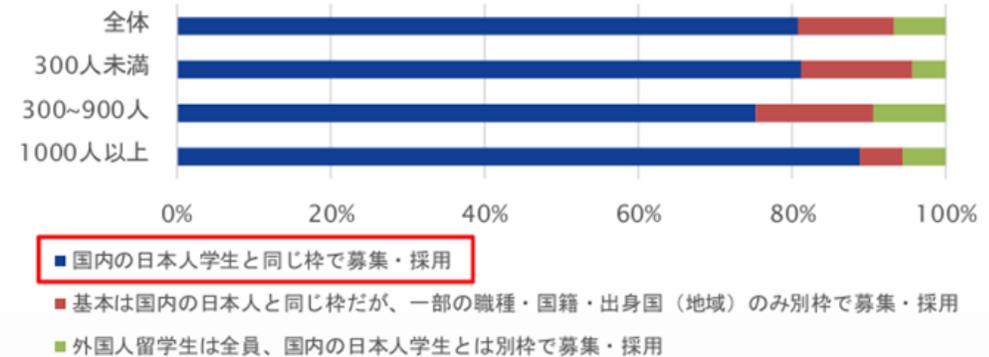
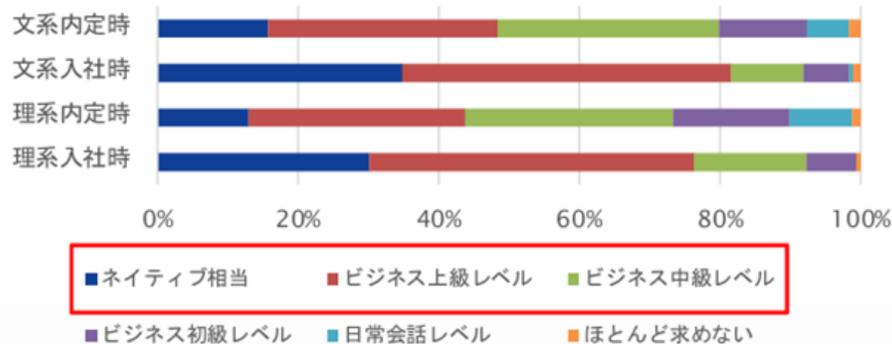
採用基準は文理ともに“日本語”で
適切な“コミュニケーション”ができる人



	文系	理系
1	コミュニケーション能力	コミュニケーション能力
2	日本語力	日本語力
3	基礎学力	専門知識
4	協調性	基礎学力
5	バイタリティー	バイタリティー

約80%の企業が内定時に「ビジネス中級レベル」
を、入社時には「ビジネス上級レベル」を要求

外国人材の募集・採用方法は
「国内の日本人学生と同様」に



2. 研究の方法

① 調査日時

- ・ 2024年11月25日（月）、11月26日(火)

② 調査対象

- ・ 東京都教育庁教育監へのインタビュー調査
- ・ TOKYO GLOBAL GATEWAYへのインタビュー調査

③ 調査項目

- ・ 文献調査の結果を踏まえて質問項目を検討

④ 主な調査内容

- ・ 現状・課題・取り組み内容・今後の方向性

3. 調査結果（東京都での取り組み）

- ▶ 中学校英語スピーキングテスト
- ▶ JETプログラムによる 外国人指導者の配置
- ▶ 小学校の教員、中学校・高等学校等の英語科教員等を海外に派遣
- ▶ 外国人児童・生徒等に対する日本語指導の充実
一人一人の 実態に応じた指導・支援を推進

東京都におけるグローバル人材育成の推進

グローバル人材育成の推進（全体像）

東京都教育施策大綱（令和3年3月）

世界に羽ばたくグローバル人材の育成
（「東京型教育モデル」で実践する特に重要な事項）

東京グローバル人材育成計画'20（平成30年2月）
・グローバル人材育成の目標と20の具体的な施策を公表



東京グローバル人材育成指針（令和4年3月）

各学校において、グローバル人材育成に向けた取組を推進していくための「ガイドライン」

- 小・中・高等学校を通して育成したい資質・能力
- 期待される子供たちの姿（行動指標）
- グローバル人材育成の視点からの教科横断的な取組例
- 中学校英語スピーキングテストやTOKYO ENGLISH CHANNELなど、授業等で活用できる東京都の施策

各学校において、次代を担う**全ての子供たち**が社会で活躍するための
資質・能力を育み、グローバル人材の育成を推進



出所：東京都教育庁提供資料より引用

東京都におけるグローバル人材育成の推進

小学校における外国語教育の充実

- 英語の専科指導教員の配置等の整備
- 教員採用候補者選考で、**小学校全科（英語コース）の選考を実施**
- 教員の指導力向上を図るため、**外国語指導に関する研修の実施**や、**指導資料の活用を促進**

中学校における外国語教育の充実

- 英語「話すこと」の指導の充実を図るため、中学校等全生徒を対象に、**中学校英語スピーキングテスト（ESAT-J YEAR 1, YEAR 2及びESAT-J）を実施**し、第3学年については、都立高等学校入学者選抜において、その結果を活用
- 生徒一人一人の発話量を確保し、実際に英語を使う活動を充実させるために、**少人数・習熟度別指導を実施**



東京都におけるグローバル人材育成の推進

高等学校における外国語教育の充実

- 授業内外で英語を用いたコミュニケーション機会の増加を図り、「使える英語力」の育成を一層推進するため、JETプログラムによる外国人指導者の配置を拡充
- 英語「話すこと」の向上を図るため、全ての都立高等学校等において、オンライン英会話を実施
- 英語力を客観的に測り指導の充実を図るため、外部検定試験を活用



授業で学んだ英語を活用する機会の充実

- 児童・生徒が英語を使用する楽しさや必要性を体感でき、英語学習の意欲向上のきっかけづくりとなる実践的な学習を行うため、「TOKYO GLOBAL GATEWAY」の活用を促進
- 児童・生徒が自らの興味・関心に応じて主体的に学べる機会を確保するため、専用ウェブサイトにおいて、教材を提供
- オンラインと対面のハイブリットイベント開催



東京都におけるグローバル人材育成の推進

国内外の課題を解決する 創造的・論理的思考力の育成の充実

- 社会事象や諸課題について問題意識をもち、解決に向けた新たな考えを生み出す資質・能力を身に付けていくために、**オンライン国際会議、プレゼンテーションコンテスト、TGGの宿泊プログラム**を実施
- 教科等で学んだ知識を相互に関連付けて活用する機会や、学校や国籍を超えて生徒が学び合う機会を提供



教員の指導力の向上

- 教員の指導力を向上させるため、小学校の教員、中学校・高等学校等の英語科教員等を、**海外に派遣し、最新の英語教授法のプログラムを受講させ、指導力を向上**
- 授業改善のため、指導資料の作成・活用を推進し、中学校英語科教員を対象とした研修会を開催



② TOKYO GLOBAL GATEWAY

2018年に開業した体験型英語学習施設
約67カ国の多国籍スタッフ

外国人スタッフの採用、研修体制

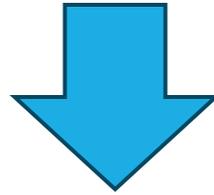
国籍・年齢・性別にとらわれない多様な人材を採用
採用時の徹底的な研修に加え、着任後も継続的な研修体制

- ▶ 多様性を尊重し、国際的な職場環境を実現するために積極的な取り組み
- ▶ クリスマス休暇
- ▶ 礼拝堂の設置

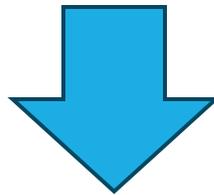


TOKYO GLOBAL GATEWAY

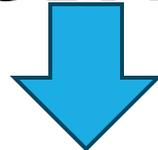
2016年3月 東京都から「英語村」事業実施方針及び募集
要項発表



2016年9月 学研HD・市進HD・LCA・英語教育協議会・博報
堂の5社コンソーシアムが最優秀事業応募者として決定



2017年2月 (株)TOKYO GLOBAL GATEWAY 設立



出所：TGG提供資料より引用

2018年9月6日 開業

TGGへのインタビュー調査結果

インタビュー調査内容	TGG
プログラムの特徴	①「ミッションカード」を使って、海外で遭遇する多様な場面に挑戦 ②映像制作やビジネス・プログラムなど英語「で」挑戦
施設の特徴	「レストラン」、「ホテル」、「エアプレーン」、「クリニック」、「フォーマシー」で学んできた英語を実践活用
難易度	「初級」「中級」「上級」があり、様々なレベルに対応している。
独自の取り組み	英語以外の学びを指導する「スペシャリスト」を各教室に配置し、各プログラムのサポートを行う。 終了後はフィードバックを行う。

出所：報告者の調査に基づく

4. 大阪府と東京都の比較

大阪府

- ・ **グローバル人材育成基金事業**
- ・ **高校生等海外進学支援事業 (おおさかグローバル塾)**
→総合的な海外進学支援
- ・ **実践的英語体験活動推進事業**
→外国人スタッフと実践的な英語体験活動
- ・ **外国人留学生就職支援事業**
→外国人留学生に対し、就職活動に対するセミナー

東京都

- ・ **小学校、中学校、高等学校における外国語教育の充実**
 - ・ 授業で学んだ英語を活用する機会の充実
- **「TOKYO GLOBAL GATEWAY」の活用を促進**
 - ・ 教員の指導力の向上
- 教員の指導力を向上させるため、小学校の教員、中学校・高等学校等の英語科教員等を、**海外に派遣し、最新の英語教授法のプログラムを受講させ、指導力を向上**

インタビュー調査で得られたこと

大阪府の課題：

- 外国語教育の充実
- 実践的な英語使用機会の提供
- 教員の指導力向上
- 全教育段階での外国語教育の強化や学んだ英語を活用する場を提供するプログラムの整備が求められる

5. 政策提案① 外国人留学生に向けて

JAPANインターンシッププログラムの拠点構築

- ▶ 対象：大阪の外国人留学生（高校生・大学生）
- ▶ 目的：日本でのインターンシップ経験を早いうちから経験
- ▶ 期間：長期休み等を利用して1週間程度
- ▶ 大阪府内の企業と大学が連携→外国人採用したい企業がインターンシップの機会を提供
- ▶ 国際的なビジネス経験を求める若者にとって充実した環境を提供

5. 政策提案②国際的に活躍したい日本人

大阪グローバルインターンシップ拠点構築

▶大阪府内の企業と大学が連携→海外に本社や支社を持つ企業中心にインターンシップの機会を提供

▶内容：開発コンサルタント経験

▶期間：2週間から1か月程度

▶インターンシップのメリット

国際的な企業や組織と連携→異文化に適応するスキル。

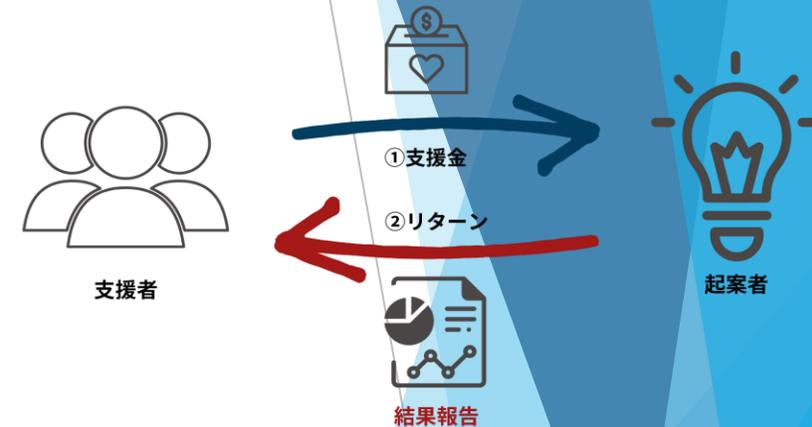
グローバル市場での経済・社会開発プロジェクトに携わる→視野が広がる

資金調達方法

クラウドファンディングの活用

大学内で学生支援のために設定された基金を活用
→ インターンシップマッチングサイトの開発や運営に資金を提供

- ・ 支援団体(主に大学)に学生のインターンシップ体験や特典を優先的に提供
- ・ このサイトを通じて、インターンシップの機会を提供し、企業と大学のマッチングを実現



この取り組みによる双方のメリット

企業側：新たな雇用創出や人材育成を促進、企業の
ブランド力や社会的評価の向上

学生側：日本人→グローバルに活躍するための必要
なスキルの向上

外国人留学生→日本での就業経験を積む機会

課題

プログラムの認知度と参加促進

- 学生や企業に対する認知度の向上が課題。
- 特に、プログラムへの参加を促すためには、十分な広報活動と参加者の実績が必要になる

地域間の格差とアクセスの不平等

- 他の地域からの学生や企業が参加しにくくなる可能性
- 交通アクセスの問題や施設の立地条件も障壁となる

報告のまとめ

大阪が副首都化を実現するためには、大阪の強みを最大限に活かし、グローバルな都市としての地位を高める必要

経済面：大阪は東京よりもビジネスコストを抑えられること
→企業にとって魅力的な拠点となり得る。
国内外からの企業や人材が集まりやすい環境

教育面：大阪には多様な大学や研究施設
教育・研究分野において非常に優れた環境

大阪の企業と教育機関が連携
→人材育成とブランド力、社会的評価の向上
学生はグローバルに活躍するために必要なスキルが向上
→これまでの大阪の強みをさらに発展させる機会

参考文献

- 大阪府（2024）「副首都ビジョン」ガイド
https://www.city.osaka.lg.jp/contents/wdu300/fukushuto_vision_guide/forte/
- 文部科学省(2024)「日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査」
https://www.mext.go.jp/content/20240808-mxt_kyokoku-000037366_01.pdf
- 内閣府「外国語教育の抜本的強化のイメージ」
<https://www.mext.go.jp/content/000025257.pdf>
- 株式会社ディスコキャタスリサーチ「外国人留学生、高度外国人人材の採用に関する企業調査結果」
https://www.lisalisa50.com/research20180131_1.html
- 東京都教育委員会「グローバル人材の育成（外国語・国際理解）」
<https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/school/content/global.html>